

2019年度 物流システム機器生産出荷統計 【概要版】

2020年8月

 公益社団法人
日本ロジスティクス システム協会
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS

 一般社団法人
日本物流システム機器協会
The Japan Institute of Material Handling

物流システム機器生産出荷統計調査委員会・委員名簿

	所 属	役 職	氏 名
委員長	早稲田大学	理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科 教授	吉本 一穂
副委員長	村田機械(株)	常務取締役 L & A 事業部長	石山 敏彦
委 員	(株) I H I 物流産業 システム	営業本部 企画部 課長	今村 壮壱
〃	オークラ輸送機(株)	営業本部 営業企画室 営業管理グループ 係長	石原 智裕
〃	(株)オカムラ	上席執行役員 物流システム事業本部長	田尻 誠
〃	三機工業(株)	プラント設備事業本部 企画開発部 企画開発 1 課長	半田 邦博
〃	西部電機(株)	マテハン事業部 営業部 部長	村上 光平
〃	第一工業(株)	搬送システム本店 営業部 主任	三浦 洋
〃	(株)ダイフク	経営企画本部 広報部 参事	西山 未喜
〃	トーヨーカネツ(株)	取締役 常務執行役員 ソリューション事業本部長	大和田 能史

(2020年8月現在、敬称略、社名五十音順)

事務局：公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所

I. 統計の目的

物流システム機器は生産や流通の効率化、高付加価値化に重要な役割を果たしており、我が国経済の発展のためにもその発展と成長が期待されている。そのためには、関係する企業が適切な経営判断を行えるよう、物流システム機器についての定量的で継続性のあるデータが不可欠である。

このようなことから、物流システム機器の生産出荷状況を定量的かつ継続的に把握することを目的として、標記の調査を実施するものである。なお、本調査は「物流システム機器推進部会」（旧：物流システム機器懇談会）が1985年度から実施している統計を実質的に継承しているが、2007年度調査より新たに調査委員会を設置し、一般社団法人日本物流システム機器協会・統計部会の協力を得て、調査内容の検討・分析を行っている。

II. 調査対象と期間

国内主要物流システム機器メーカーを対象とし、2019年4月から2020年3月までの実績を調査集計したものである。

業種別調査は、調査対象25機種について、機種別に売上件数ベースで主要出荷先上位10業種を選択し、金額構成比を記入する方式としている。各社の各機種の売上金額に金額構成比を乗じて、各機種および小計別に、売上金額の上位10業種および金額のトータルを、グラフにまとめている。

97年度よりフォークリフト等、産業車両分野は一般社団法人日本産業車両協会の調査による統計を別枠で発表している。また、2006年度より、一般社団法人日本パレット協会が調査を実施しているパレット（木製パレット・金属製パレット・プラスチック製パレット・シートパレット・紙製パレットの合計）の生産数量および出荷額をあわせて別枠で掲載している。

2019年度フォークリフトは国内販売実績81,538台で、国内販売向け金額は2,348億8,400万円である。輸出版売実績は31,435台である（一般社団法人日本産業車両協会において、輸出版向け販売金額は現在調査していない）。

2019年度パレットは生産数量が前年比5%増加の7,134万枚で、出荷額は2,068億円となっている。

1. アンケート実施状況

- ・実施日程：2020年5月15日発送～6月19日〆切

2. 調査範囲

- ・製造業における組立ライン、ホテル、病院、図書館、オフィス等通常の物流領域以外への出荷を含める（自動車の製造ラインも含む）。
- ・増設・改造等（工事を伴うサービス業務）についても、出荷データに含める。
- ・クリーンルーム向けを含む（クリーンルームの定義は次項参照）。

※増設は、基数、件数、売上金額を含む。

※改造は、売上金額のみ計上し基数、件数は含まない。

3. クリーンルームの定義

- 1) クラス10,000以下
- 2) 該当業種：半導体、FPD関係、太陽電池、HDD、メディアなど
- 3) 医療・食品業界向けは、クリーンルーム向け販売には含めず、エンドユーザーと売買したものに含める(一般物流とする)

4. 調査範囲について

2003年度（調査対象年）より、機器メーカー各社で取扱高が増えたクリーンルーム向けの調査を開始しているが、2004年度までの定義は「クラス10,000以下で半導体を除く」としていた。また、調査範囲を2005年度（調査対象年）より変更しており、2004年度までは「製造業における組み立てライン、ホテル、病院、図書館、オフィス等、通常の物流領域以外への出荷は含まない」としていた。また、2007年度まではパレットおよびロールボックスパレットを調査対象に含めていた。

Ⅲ. 調査対象機種

図表1 調査対象機種

1・2	パレット用自動倉庫 (ビル式・ユニット式)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的にパレット積みされユニット化された荷を、多段高層の棚及びスタックークレーン等を使用して自動的に搬入・搬送・搬出できる保管庫をいう。 ・また、荷を直接ハンドリングするパレットレスのものも含む（ビール樽、新聞用紙など）。
3	バケット用自動倉庫 (ユニット式)	<ul style="list-style-type: none"> ・通箱、バケット、カートンを単位としたもの。
4	天井走行台車	<ul style="list-style-type: none"> ・天井空間に設置し、軌道ないし台車に駆動力を持つもの。 ・基数は台車の数量とする。金額には軌道・制御装置を含む。
5	有軌道台車システム	<ul style="list-style-type: none"> ・軌道ないし台車に駆動力を持つもの。 ・基数は台車の数量とする。金額には軌道・制御装置を含む。
6	無軌道台車システム	<ul style="list-style-type: none"> ・各種センサーにより誘導される無人搬送台車。 ・基数は台車の数量とする。金額には制御装置を含む。
7	仕分機	<ul style="list-style-type: none"> ・自動にて荷の仕分けを行うもの。 ・構成範囲はインダクション部（誘導部、商品投入部）からソータ本体、仕分けシュートまで（リサークルラインはケース搬送用コンベヤとする）。 ・基数は、台数とする。
8	パレット搬送用コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・パレットを被搬送物とするコンベヤ。 ・対象範囲：パレットを搬送するコンベヤすべてを含む、及びコンベヤ本体を制御する本体制御を含む。
9	ケース搬送用コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・バケット及びカートンケースを対象としたコンベヤ。ただし、石炭、鉱石、泥等のバルクを搬送するものは除く。 ・対象範囲：ケースを搬送するコンベヤすべてを含む、及びコンベヤ本体を制御する本体制御を含む。

図表1 調査対象機種（つづき）

10	ハンガー式コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> 天井空間に設置し、ハンガー商品を吊下げて搬送するコンベヤ。 対象範囲：物品を吊り下げて搬送するコンベヤで、本体・装置・制御全体を含む。
11	デジタルピッキング表示器	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの指示によりピッキングする品物の位置と数量を表示する装置。 対象範囲：表示器を取り付けている流動棚、中軽量棚、コンベヤは含まない。ただし、回転棚に取り付けているピッキング表示器は回転棚に含む（バーチカル・水平共）。 制御関係は本体制御を含み、指示するコンピュータはコンピュータに集計する。
12	ピッキング台車	<ul style="list-style-type: none"> ピッキングする品物の位置と数量を表示する装置を取り付けているピッキング用の台車。 対象範囲：ピッキング台車本体及びコンソールと、付属する部品（充電器等）も含む。
13・14	回転棚（垂直式・水平式）	<ul style="list-style-type: none"> 荷の軽重、制御レベルを問わない。垂直、水平両方式の回転する棚。 基数は、台数とする。
15・16	移動棚（電動式・手動式）	<ul style="list-style-type: none"> 電動、手動にて移動する機構を備えた棚。 基数は、台数とする。
17	重量棚	<ul style="list-style-type: none"> パレット単位のユニットロードを格納する棚（ネスティングパレットを含む）。
18	中軽量棚	<ul style="list-style-type: none"> カートン単位、またはバケット単位などを格納する棚で、1棚当りの重量が約500kg以下のもの。
19	流動棚	<ul style="list-style-type: none"> カートン単位またはバケット単位のもの、傾斜の付いた棚に置き、前面での取り出しを容易にさせたもの。
20	パレタイザ／デパレタイザ	<ul style="list-style-type: none"> バケット、カートンケース、袋物等の物品を自動にてパレット上に整列集積（或いは分離）する装置。 機械式、ロボット式のいずれの方式も含む。
21	パレット搬送用垂直搬送機	<ul style="list-style-type: none"> 複数の搬入出装置を備え、連続で搬送物を垂直搬送する装置（パレットを被搬送物とする）。 ただし、エレベータ、小荷物専用昇降機は含まない。
22	ケース・ピース搬送用垂直搬送機	<ul style="list-style-type: none"> 複数の搬入出装置を備え、連続で搬送物を垂直搬送する装置（バケット及びカートンケースを対象とする）。 ただし、エレベータ、小荷物専用昇降機は含まない。
23・24	コンピュータ（ハード・ソフト）	<ul style="list-style-type: none"> 物流機器の情報処理と在庫監視を同期化して行うコンピュータシステムのハード・ソフト。
25	WMS	<ul style="list-style-type: none"> 物流センター・倉庫等で入荷から出荷までの一連の作業を支援するコンピュータシステム（ハード・ソフト）。 対象範囲：物流設備の有無、物流設備との接続の有無を問わない。
26	その他	<ul style="list-style-type: none"> 以上1～25の分類に該当しないもの。

IV. 調査事項

前項であげた各々の機種につき、A売上件数、B基数、C総売上金額、D海外向金額を調査しており、数値の重複を避けるため、以下の区分で調査を行なっている。

M：同業他社向けに売買したもの

U1：エンドユーザー、商社などと売買したもの

U2：ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの

C：クリーンルーム向けに売買したもの

C総売上金額、D海外向金額の数値はいずれも売上ベースであり、売上件数に対応する据付、調整工事を含む全金額とする。ビル式の場合には土木、建築工事の金額を含むものとする（建築の範囲：ラックに付属する屋根・壁）。D海外向金額はC総売上金額の内数である。

なお、売上件数については、例えば同一顧客企業に2回以上納品した場合、部品だけを納品した場合等、回答企業によりカウントの方法が異なる回答が含まれている可能性があり、注意が必要である。

業種別調査は、売上金額を出荷先業種別に調査したものである。業種別調査は、下記の業種分類により調査を行っている。ただし、業種別調査は出荷先上位10業種のための調査であることに加え、業種別の回答が得られない企業があることから、業種別売上高の総計が総売上金額に一致しない場合がある。

図表2 業種調査の業種分類

業種分類	大分類	業種分類	大分類
1 建設	8 その他	191 小売業	5 卸・小売
2 食料品製造	3 食品・医薬等	192 通信販売	
3 繊維・衣服	4 その他製造	20 自動車販売	8 その他
4 パルプ・紙加工		21 自動車整備サービス	
5 出版・印刷		22 サービス業	
6 化学		23 倉庫業	6 倉庫・運輸
7 医薬・化粧品・塗料	3 食品・医薬等	24 陸運	
8 石油・ゴム製品	4 その他製造	25 海運	
9 ガラス・窯業・土石製品		26 空運	
10 鉄鋼		27 鉄道	
11 非鉄・金属製品		28 通信	8 その他
12 一般機械器具		29 電気・ガス・水道	
13 電気機械器具	1 電機・精密機器	30 官庁・学校	7 官庁・図書館等
14 自動車/輸送用機械器具	2 輸送機器・部品	31 団体・組合(JA等)	
15 精密機械器具	1 電機・精密機器	32 ホテル	8 その他
16 自動車部品製造	2 輸送機器・部品	33 病院	7 官庁・図書館等
17 その他製造	4 その他製造	34 図書館	
18 卸売業(商社)	5 卸・小売	35 その他	8 その他

V. 全体の推移

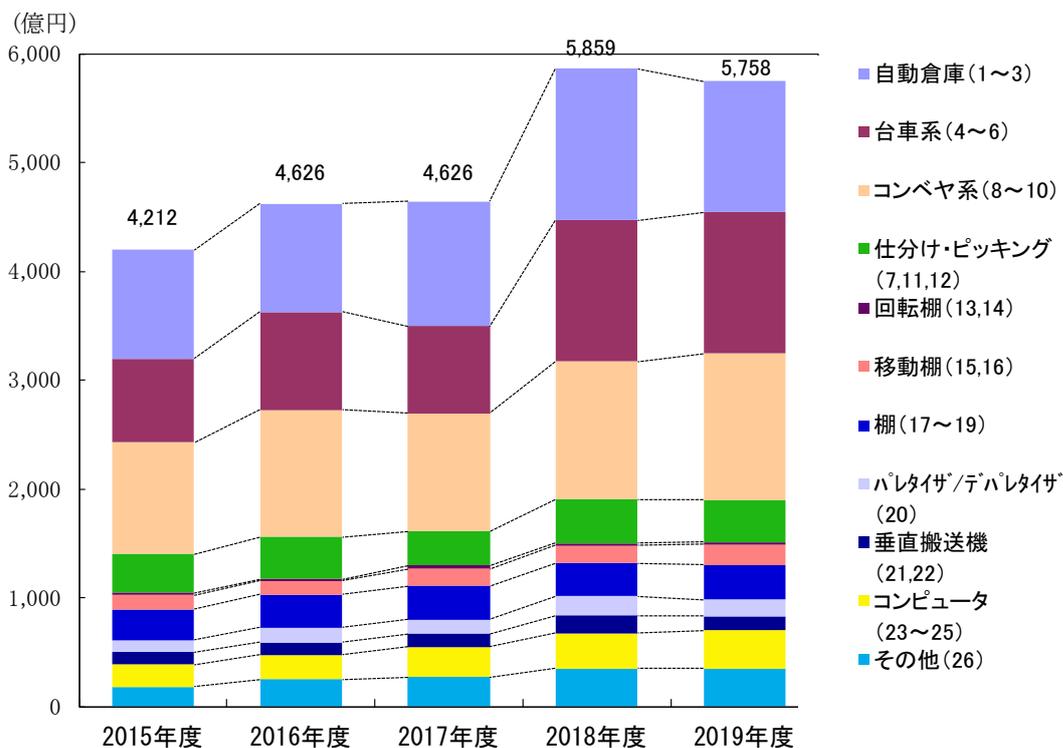
集計の結果、2019年度の物流システム機器の総売上金額は、2018年度の585,870百万円から1.7%減の575,756百万円となった（**図表3**）。また、売上件数は2018年度の141,636件から131,092件へと減少した。

総売上金額は昨年度に引き続き500,000百万円を超えた。後述する受注金額も昨年度とほぼ同等であることを踏まえると、メーカー各社が供給能力を高め、大規模案件を中心とした着工・出荷対応が継続されたものと推察される。

売上金額を領域別に見ると、海外向けは昨年度とほぼ同等、クリーンルーム向けは10.9%の減少となった。業種別に見ると、「電機・精密機器」に対する売上の比率が、依然として高水準となっている（**図表5**）。

なお、2013年度調査から業種分類を変更しており、従来「小売業」の内数であった「通信販売」を新たに業種分類として独立させ、調査している。2019年度の「通信販売」の売上金額は17,254百万円となり、これは総売上金額の約3.0%である。

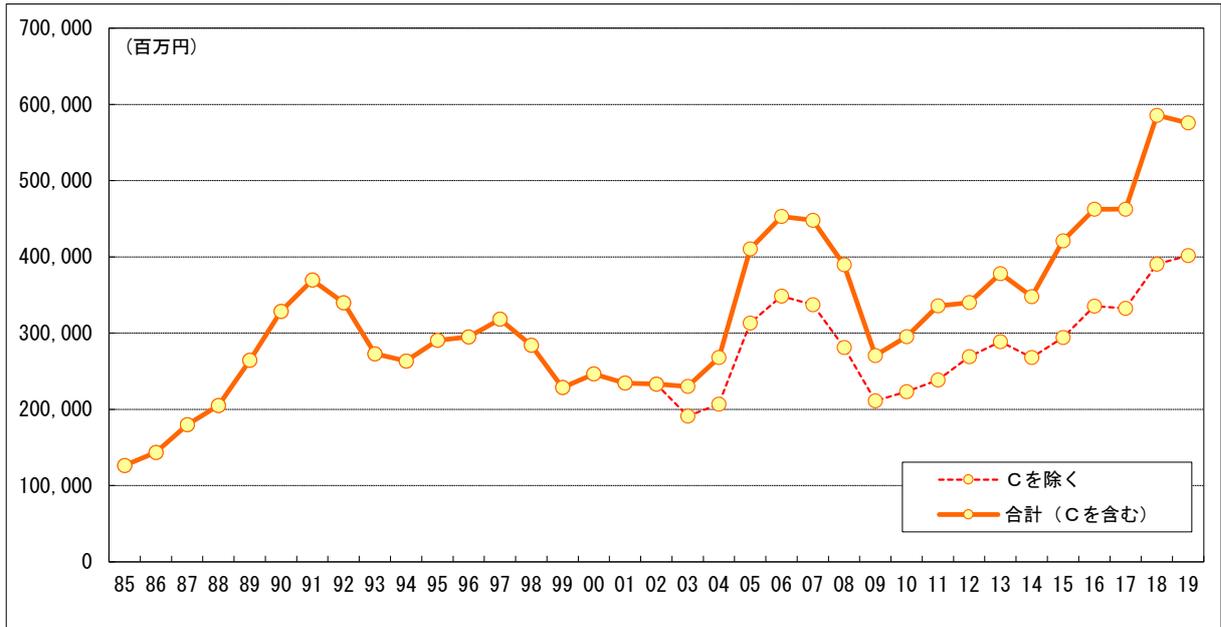
図表3 総売上金額の推移



金額	421,167	462,594	462,643	585,870	575,756	(百万円)
前年比	121	110	100	127	98	(%)

注：凡例の数字は、図表1の番号に対応

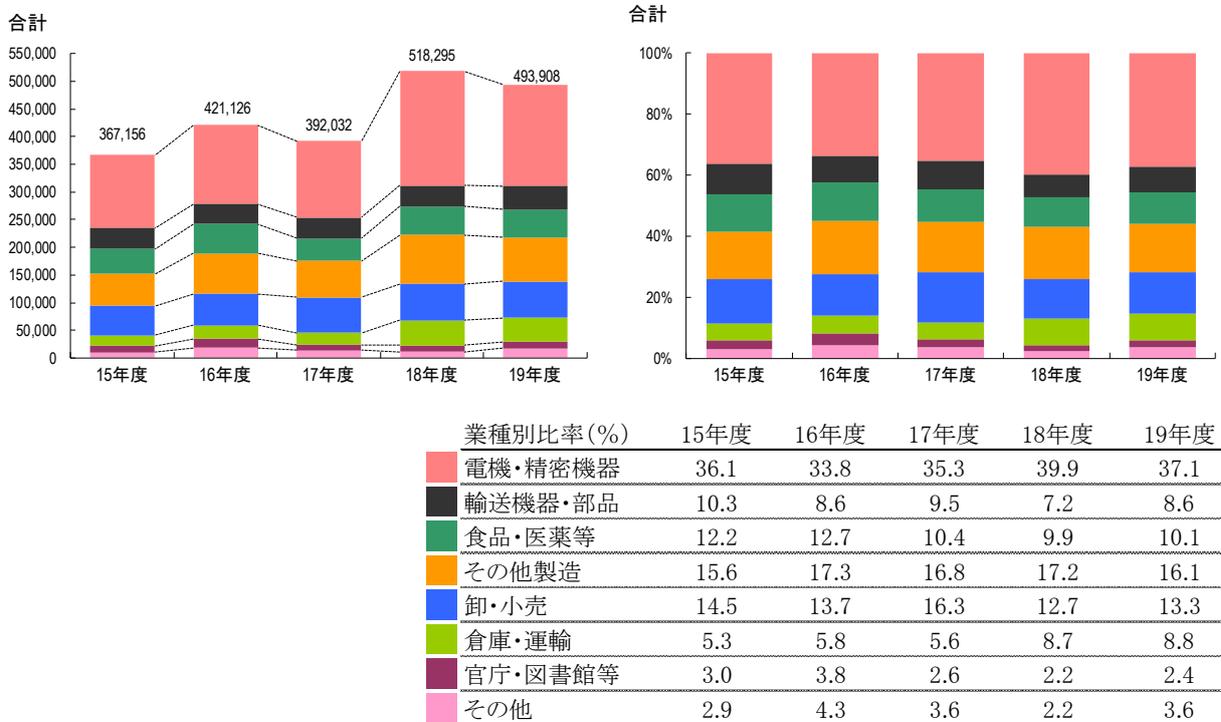
図表4 物流システム機器の総売上高（長期時系列）



注：2003年度より、クリーンルーム向け（図中のC）を調査対象に加えており、それ以前との比較のため、Cを除いたグラフも掲載した。

なお、調査範囲はそれ以外にも変更を行っており、II. 4項を参照のこと。

図表5 業種大分類別売上高の推移
（左：金額ベース／右：構成比）



注1：業種分類については図表2を参照のこと。

2：売上高の業種別構成比の記入がない回答があるため、総売上金額の合計と一致しない。

VI. 各機種の動向

■自動倉庫（1～3）

自動倉庫全体の売上金額を見ると、前年度の139,015百万円から2019年度は120,184百万円へと減少（△13.6%）した。機種別に見ると、パレット用自動倉庫（ユニット式）の売上金額が、66,254百万円から51,476百万円へ減少（△22.3%）となった。また、クリーンルーム向けについては、58,084百万円から37,068百万円へ減少（△36.2%）する結果となった。基数（パレット数）は1,881千パレットから1,870千パレットへ微減（△0.6%）している。

■台車系（4～6）

台車系は、2019年度については、129,899百万円から129,790百万円へと、ほぼ横ばいの推移となった。基数については、8,312台から11,070台へと増加（33.2%）した。

機種別にみると、天井走行台車が98,934百万円から103,547百万円へ増加（4.7%）、有軌道台車システムが15,400百万円から11,434百万円へ減少（△25.8%）、無軌道台車システムは15,565百万円から14,809百万円へ減少（△4.9%）という結果となった。

■コンベヤ系（8～10）

コンベヤ系の売上高は、2017年度以降増加の傾向にあり、2019年度は126,808百万円から134,017百万円へと増加（5.7%）した。

機種別には、ケース搬送用コンベヤが67,673百万円から73,904百万円へ増加（9.2%）し、ハンガー式コンベヤが、4,538百万円から7,192百万円へ大幅に増加（58.5%）した一方、パレット搬送用コンベヤについては、54,597百万円から53,731百万円へと微減（△1.6%）する結果となった。

コンベヤ系は、従来よりクリーンルーム向けの売上金額の割合が小さく、大勢には影響を与えないが、2019年度のクリーンルーム向けの売上金額については、11,497百万円から13,302百万円へと増加（15.7%）した。

■仕分け・ピッキング系（7,11,12）

仕分け・ピッキング系は、物流システム機器の中では好不況の影響が比較的少なく、他の機種と比べると例年売上金額の変動は小さいが、2019年度は前年度の40,216百万円から38,560百万円へと、減少（△4.1%）している。

全体の過半は仕分機が占めているなか、仕分機の売上金額は、33,108百万円から31,732百万円に減少（△4.2%）、基数についても、3,966台から3,854台へと微減（△2.8%）している。なお、仕分機の主たるユーザは卸・小売、倉庫・運輸等の内需関連産業であり、設備投資の波動が大きくないため、長期的にみても安定した売上を維持している。またデジタルピッキング表示器についても、売上金額が6,272百万円から6,085百万円へと微減（△3.0%）している。

■回転棚・移動棚（13～16）

回転棚・移動棚の売上高は、好不況の影響で多少増減するものの、近年は安定的に推移している。2019年度は前年度の18,078百万円から22,163百万円へと増加（22.6%）している。

機種別にみると、売上金額の大半（85.9%）を移動棚が占めている。移動棚の売上は電動式が11,594百万円から12,291百万円へ増加（6.0%）、手動式は、4,294百万円から6,593百万円へと大きな伸びを（53.5%）示した。回転棚（垂直式）は641百万円から921百万円へと大きく増加（43.7%）し、回転棚（水平式）については、1,549百万円から2,358百万円へこちらも大きく

増加（52.2%）している。

なお、本調査の調査対象はオフィスなど通常の物流以外の領域を含んでいる。業種別調査の結果を見ると、たとえば移動棚（手動式）では「官庁・図書館等」向けが約半数を占めている。

■棚（17～19）

棚は、重量棚、中軽量棚、流動棚の3機種からなる。売上金額は30,653百万円から32,085百万円へと微増（4.7%）した。重量棚が9,071百万円から9,160百万円に微増（1.0%）、中軽量棚が20,855百万円から21,817百万円に微増（4.6%）している。また流動棚については、727百万円から1,108百万円へと大きく増加（52.4%）した。

なお棚の出荷先は、例年、卸・小売、倉庫・運輸、官庁・図書館等が多い傾向にあるが、流動棚については、2019年度は食品・医薬等への出荷が大きく増加している。

■パレタイザ/デパレタイザ（20）

パレタイザ/デパレタイザは、2009年度の一時的減少を除くと、これまで景気の影響を大きく受けず長期的に安定的な水準を維持しており、2018年度は、前年度の売上高13,291百万円から17,454百万円へと増加（31.3%）したが、2019年度は15,058百万円へと減少（△13.7%）した。基数で見ると、924台から1,176台と増加（27.3%）している。

業種別調査の結果によると、出荷先業種は「その他製造」と「食品・医薬等」の2業種で大半を占める。

■垂直搬送機（21,22）

垂直搬送機は、売上金額が16,471百万円から13,106百万円へと減少（△20.4%）している。

機種別にみると、パレット搬送用垂直搬送機は13,006百万円から9,271百万円に減少（△28.7%）、ケース・ピース搬送用垂直搬送機は3,465百万円から3,835百万円へと増加（10.7%）している。

業種別に見ると、ケース・ピース搬送用垂直搬送機の出荷先は、「電機・精密機器」、「卸・小売」向けで約7割（73.1%）を占めている。パレット搬送用垂直搬送機は倉庫・運輸が4割程度（41.7%）を占める。

■コンピュータ（23～25）

コンピュータは、物流システム機器の情報処理や在庫管理を行う、一般的には制御系の機能を含むコンピュータソフト・ハードと、WMS（倉庫管理システム）からなる。

このうちWMSについては、本統計が主として物流システム機器のメーカー（エンジニアリング会社を含む）を調査対象としており、カバレッジが充分でない点に留意が必要である。特に、大手情報システムベンダーでは、WMSの機能を含む物流情報システムを個別に開発しているケースが多いと思われるが、上記の理由から本調査ではカバーできていない。

コンピュータ全体の売上金額をみると、2019年度は、前年度の32,276百万円から34,856百万円へと増加（8.0%）した。機種別に見ると、コンピュータ（ハード）が9,618百万円から10,120百万円へ（5.2%）、コンピュータ（ソフト）は19,129百万円から22,747百万円へと増加（18.9%）した。なお、コンピュータは物流システム機器の制御等に利用されるものが多く、他の機種の出荷傾向に影響を受ける。

VI. 海外の市場動向

海外向け売上金額は、2018年度の189,663百万円から2019年度は187,276百万円へ微減（△1.3%）となった。海外向けは従来クリーンルームの割合が高く、その影響を強く受ける傾向がある。2019年度については、クリーンルーム向けの海外売上高は156,381百万円から140,109百万円へ減少（△10.4%）となっているが、ここ数年の推移で見ると、海外向け全般が継続して高い水準を保っていることが分かる。

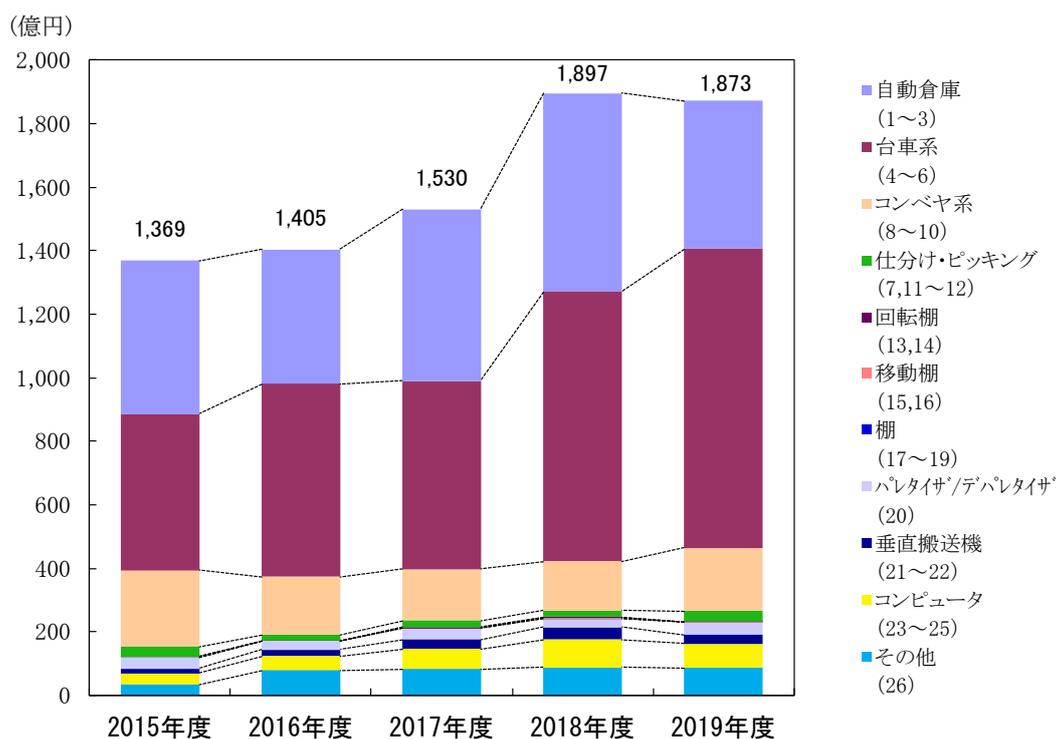
海外向け売上金額では、台車系が全体の50.3%、自動倉庫が24.9%、コンベヤ系が10.6%を占め、この3機種で8割以上（85.8%）を占める。

この3機種のうち、台車系は85,021百万円から94,214百万円に増加（10.8%）、自動倉庫は62,467百万円から46,671百万円に減少（△26.3%）、コンベヤ系は15,433百万円から19,837百万円に増加（28.5%）する結果となった。

なお、台車系の海外向け金額は、90%以上がクリーンルーム向けで占められている。

なお、クリーンルーム向けの売上金額は、海外向け総売上に対して74.8%を占めている。

図表6 海外向け売上金額の推移



金額	136,882	140,463	153,025	189,663	187,276	(百万円)
前年比	128	103	109	124	99	(%)

VI. 最後に

以上で見てきたとおり、2019年度の総売上金額は昨年度と比較してほぼ横ばいの結果となった。

2019年度末に、「新型コロナウイルス感染症」が拡大し、世界経済および日本経済へ大きな影響を及ぼしている。その影響は長期化することが見込まれる一方で、ロジスティクス・物流における労働力不足への対応は依然として大きな課題である。コロナ禍における、我が国の経済状況と景気の推移が本調査に与える影響については、引き続き注視する必要がある。

なお、本調査では、四半期毎の受注額も調査を行っている。受注調査では、売上高ベースで出荷調査の85%程度に相当する企業の回答を得ている。受注は出荷の先行指標であるが、2019年度の出荷額は、2018年度の受注金額（636,010百万円）の90.5%であり、受注金額と次年度の出荷額は、おおよそ近似していると考えられることができる。

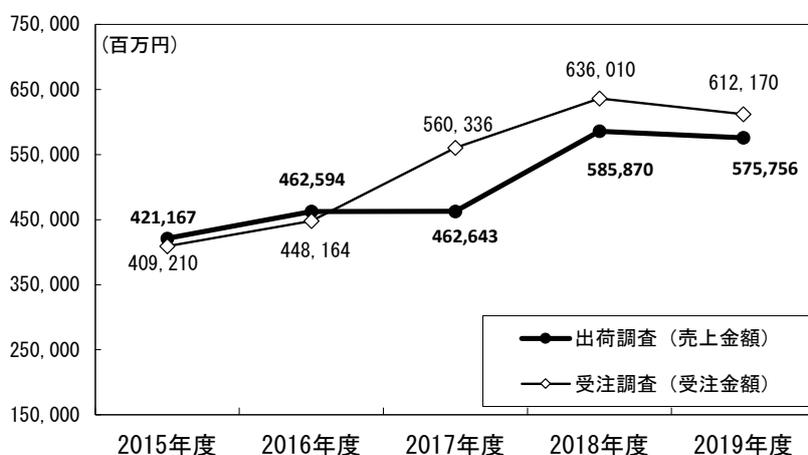
2019年度の受注金額は6,122億円と、2018年度に引き続き高水準を維持しているが、2020年度以降の受注金額の変動については、新型コロナの影響を踏まえ、動向を注視したい。

我が国の製造業は、世界規模での新型コロナウイルス感染症の影響をはじめ、米国や中国といった大国の政治・経済の不安定要素、アジア各国との競争激化など、様々な課題を抱えている。また国内では、少子高齢化により、深刻な労働力不足が引き続き課題となるなか、Society5.0の実現に向け、社会構造が大きく変わろうとしている。このようななかで、重要な役割を担うロジスティクス・物流もまた、大きな変革を求められている。

こうした状況のもと、物流現場の省力化・自動化を実現する物流システム機器への重要性は、より一層増すものと考えられる。物流システム機器業界として、産業界の持続的な発展に貢献するためにも、さらなる技術革新と標準化を推進し、安全で環境負荷の少ない物流システム機器を提供することが重要である。

図表7 物流システム機器の受注額との比較（参考）

グラフは、各年度における「売上金額」と「受注金額」を表す。大型の機器等では、受注と売上（出荷）には1年ないしそれ以上のタイムラグが生じる。そのため、受注は売上（出荷）の先行指標となる。



出典：物流システム機器の受注統計整備に関する調査

注：本調査の回答企業は、売上高ベースで「出荷統計調査」の85%程度に限られる。

以上

2019年度 物流システム機器 生産出荷統計

M: 同業他社と売買したもの
 U1: エンドユーザー、商社などと売買したもの
 U2: ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの
 C: クリーンルーム向けに売買したもの
 計: U1+U2+C

設備機器名		A 売上台数	B 基数		C 売上金額 (百万円)	D 海外向金額 (百万円)
			(台)	(パレット)		
1 自動倉庫 (1~3) <small>1. パレット用自動倉庫(ピル式) 2. パレット用自動倉庫(ユニット式) 3. パケット用自動倉庫(ユニット式)</small>	M	46	70	8,570	2,189	166
	U1	1,659	2,422	1,610,671	78,880	14,539
	U2	147	132	153,187	4,236	997
	C	163	634	105,805	37,068	31,135
	計	1,969	3,188	1,869,663	120,184	46,671
2 台車系 (4~6) <small>4. 天井走行台車 5. 有軌道台車システム 6. 無軌道台車システム</small>	M	638	153		1,460	33
	U1	2,029	2,132		25,716	7,566
	U2	66	43		680	63
	C	290	8,895		103,394	86,585
計	2,385	11,070		129,790	94,214	
3 コンベヤ系 (8~10) <small>8. パレット搬送用コンベヤ 9. ケース搬送用コンベヤ 10. ハンガリー式コンベヤ</small>	M	1,690			10,810	252
	U1	22,681			118,192	12,770
	U2	349			3,333	115
	C	446			13,302	6,952
	計	23,476			134,827	19,837
4 仕分機 (7) <small>7. 仕分機</small>	M	1,245	208		4,140	15
	U1	3,646	3,744		29,868	1,111
	U2	101	81		1,571	1,259
	C	18	29		293	8
	計	3,765	3,854		31,732	2,378
5 ピッキング系 (11, 12) <small>11. デジタルピッキング表示器 12. ピッキング台車</small>	M	132	0		410	0
	U1	1,343	0		6,812	998
	U2	1	0		16	0
	C	0	0		0	0
	計	1,344	0		6,828	998
6 回転棚 (13, 14) <small>13. 回転棚 (垂直式) 14. 回転棚 (水平式)</small>	M	186	34		331	0
	U1	232	202		3,275	63
	U2	2	1		4	0
	C	0	0		0	0
	計	234	203		3,279	63
7 移動棚 (15, 16) <small>15. 移動棚 (電動式) 16. 移動棚 (手動式)</small>	M	59	103		476	0
	U1	1,792	8,220		18,655	99
	U2	35	73		229	0
	C	0	0		0	0
	計	1,827	8,293		18,884	99
8 棚 (17~19) <small>17. 重量棚 18. 中重量棚 19. 流動棚</small>	M	2,568			2,868	0
	U1	73,157			31,709	4
	U2	340			376	0
	C	0			0	0
	計	73,497			32,085	4
9 パレタイザ/デパレタイザ (20) <small>20. パレタイザ/デパレタイザ</small>	M	7	27		372	0
	U1	225	1,164		14,017	3,373
	U2	1	10		76	0
	C	2	2		965	590
	計	228	1,176		15,058	3,963
10 垂直搬送機 (21, 22) <small>21. パレット搬送用垂直搬送機 22. ケース・ピース搬送用垂直搬送機</small>	M	98	292		2,003	263
	U1	321	699		7,247	493
	U2	123	320		3,314	0
	C	17	67		2,545	2,364
	計	461	1,086		13,106	2,857
11 コンピュータ (23~25) <small>23. コンピュータ (ハード) 24. コンピュータ (ソフト) 25. WMS</small>	M	339			2,686	0
	U1	3,192			25,632	1,420
	U2	78			609	0
	C	231			8,615	6,156
	計	3,501			34,856	7,576
12 その他 (26) <small>26. その他</small>	M	317			335	0
	U1	18,268			27,163	2,601
	U2	126			16	1
	C	11			7,948	6,014
	計	18,405			35,127	8,616
13 合計 (1~26)	M	7,325	887		28,080	729
	U1	128,545	18,583		387,166	45,037
	U2	1,369	660		14,460	2,435
	C	1,178	9,627		174,130	139,804
	計	131,092	28,870		575,756	187,276

物流システム機器生産出荷統計表 総売上金額の推移

設 備 機 器 名 () は集計対象機器 (小分類) の番号	売上金額 (単位: 百万円)					
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
自動倉庫 (1~3)	M	605	909	2,425	2,431	2,189
	C	47,020	37,466	46,966	58,084	37,068
	U1+U2+C	100,084	99,667	114,392	139,015	120,184
台車系 (4~6)	M	1,782	1,840	1,349	1,862	1,460
	C	58,009	69,251	58,017	97,961	103,394
	U1+U2+C	76,874	89,902	80,105	129,899	129,790
コンベヤ系 (8~10)	M	4,856	6,449	11,700	8,175	10,810
	C	12,754	8,642	8,814	11,497	13,302
	U1+U2+C	102,692	116,741	108,295	126,808	134,827
仕分機 (7)	M	2,813	1,577	6,379	4,436	4,140
	C	250	286	321	336	293
	U1+U2+C	26,455	29,355	24,413	33,108	31,732
ピッキング系 (11, 12)	M	560	589	610	553	410
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	9,083	9,239	7,012	7,108	6,828
回転棚 (13, 14)	M	1,204	231	416	563	331
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	3,335	2,236	1,945	2,190	3,279
移動棚 (15, 16)	M	396	533	732	2,599	476
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	13,186	12,620	15,737	15,888	18,884
棚 (17~19)	M	1,310	3,754	4,499	4,799	2,868
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	28,308	30,330	30,833	30,653	32,085
パレタイザ/デパレタイザ (20)	M	195	505	214	1,050	372
	C	376	792	0	3,420	965
	U1+U2+C	11,260	13,619	13,291	17,454	15,058
垂直搬送機 (21, 22)	M	1,233	2,340	1,851	2,102	2,003
	C	1,286	1,366	2,569	3,782	2,545
	U1+U2+C	11,233	11,314	11,823	16,471	13,106
コンピュータ (23~25)	M	861	770	2,561	2,780	2,686
	C	3,727	3,796	6,403	9,477	8,615
	U1+U2+C	20,320	22,580	27,922	32,276	34,856
その他 (26)	M	78	269	809	1,463	335
	C	3,542	5,786	6,949	10,893	7,948
	U1+U2+C	18,337	24,991	26,874	35,000	35,127
合計 (1~26)	M	15,893	19,766	33,545	32,813	28,080
	C	126,964	127,385	130,039	195,450	174,130
	U1+U2+C	421,167	462,594	462,643	585,870	575,756
※ フォークリフト		208,577	213,928	221,602	239,393	234,884
※ パレット		160,286	194,234	178,811	196,885	206,772

M: 同業他社向けに売買したもの
 U1: エンドユーザー、商社などと売買したもの
 U2: ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの
 C: クリーンルーム向けに売買したもの

本概要版には、機器大分類別の売上金額、海外への売上金額といった概要データを記載しています。機器小分類別の売上金額、機器別・業種別の売上金額等の詳細データは、回答企業に配布している詳細版報告書（約70ページ）に収録しています。

2019年度 物流システム機器生産出荷統計【概要版】

2020年8月発行

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会

〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1 スズエベイディアム

電話 03-3436-3191 F A X 03-3436-3190

ホームページ <https://www1.logistics.or.jp/>

禁無断転載